

(1)目的・基本コンセプト

【背景】

都市化の進展や社会・経済情勢の変化に伴い、農業従事者の高齢化、農業後継者不足などが進んでいます。一方で、農業・農地が持つ多様性は、市の貴重な財産であるとともに、市民の豊かな暮らしに直接関わっています。グリーン・ツーリズムとしての田舎暮らし体験は、近年、都市住民にとってニーズが高まっていて、農業とふれあう交流の場の創出が求められています。農と都市が支え合って実現する都市農業の振興の必要性が高まるなか、農業交流施設整備事業は、「さいたま市総合振興計画後期基本計画実施計画」や「しあわせ倍増プラン 2013」などの市の上位計画に位置づけられ、平成 27 年 3 月には、農業交流施設整備基本構想を策定しました。

【目的】

農業交流施設整備事業は、「さいたま市農業振興ビジョン（平成 26 年 3 月改定）」に位置づけられた事業であり、農業交流施設は、農の持つ伝統的な文化や豊かな自然を都市住民に伝え、農のある暮らしの豊かさを都市住民と共有できるよう、農の魅力を発信することを目的としています。

【基本コンセプト】

農業交流施設は、基本コンセプトとして、「農・見沼の魅力発信」、「地域のグリーン・ツーリズムの拠点」、「花・植木に親しめる場」を掲げています。

【目的】

農の魅力を発信し、農の価値と魅力を都市住民と共有します。さらに都市農業の振興へとつなげます。

【基本コンセプト】

地域の特色を活かし、見沼を中心に、都市住民と農との交流を推進します。本市農産物の販路を拡大し、農家所得の向上を図ります。

- ◎農・見沼の魅力の発信
- ◎地域のグリーン・ツーリズムの拠点
- ◎花・植木に親しめる場

(2)求められる機能

基本コンセプト	求められる機能	
	ハード機能	ソフト機能
農・見沼の魅力の発信	農産物直売所、農業研修施設 農産物加工体験施設 ※レストラン	ソフト事業の実施 (各種講座、農作業体験教室、 花・植木即売会、収穫祭など)
地域のグリーン・ツーリズムの拠点	インフォメーション トイレ、駐車場	
花・植木に親しめる場	温室、緑の広場 花き集荷施設	

※レストラン機能については、周辺施設で既にレストラン機能があるため、調整を必要とします。

## (1)大崎公園周辺地域の現況

基本構想において農業交流施設の適地として絞り込んだ大崎公園周辺地域には、農業者トレーニングセンター、大崎公園、見沼ヘルシーランドや浦和くらしの博物館民家園などの公共施設があるほか、その周辺を観光農園・市民農園などが取りまいています。

## (2)農業者トレーニングセンター施設の活用について

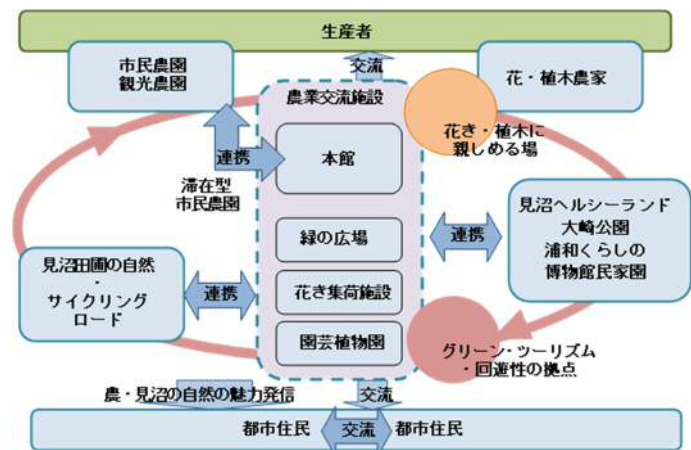
農業者トレーニングセンター本館を廃止、その併設施設を取り込み、農業交流施設として再編します。

施設名称		方針
農業者トレーニングセンター	本館	老朽化により農業交流施設本館の整備完了時期を目途として廃止、農業者トレーニングセンター本館の機能は農業交流施設で引継ぎます。
	園芸植物園・温室	農業交流施設の併設施設として、各種ソフト事業の展開場所といった用途などで、花植木を中心とした地域農業の特色を活かしながら、各既存施設を最大限に活用します。
	花き集荷施設	
	緑の広場	

## (3)既存施設の活用及び周辺施設との連携について

農業交流施設は、新しく整備する本館、園芸植物園・温室、花き集荷施設、緑の広場で構成します。

また、農業交流施設が地域における拠点の施設となり、周辺の地域資源とも積極的に連携します。



本計画では、大崎公園周辺地域から、園芸植物園エリア(案1)、農業者トレーニングセンターエリア(案2)、クリーンセンター大崎エリア(案3)の3つの敷地に絞り込み、整備候補地を検討しました。

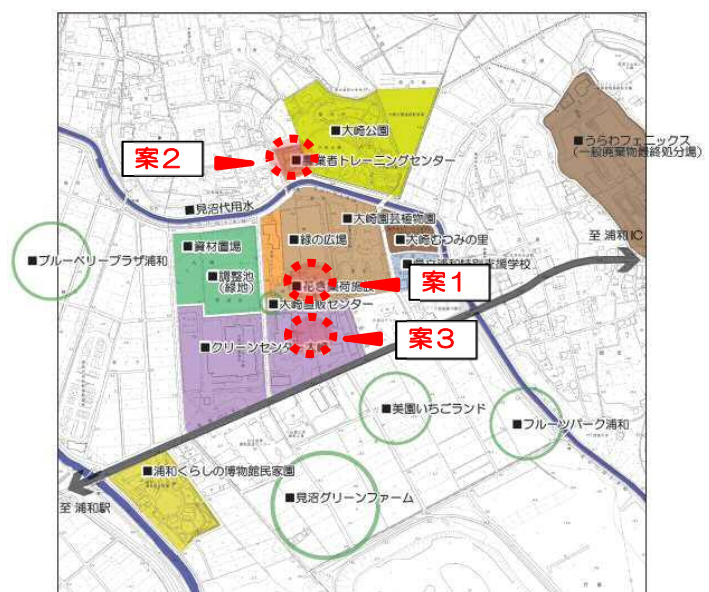
案1 園芸植物園エリア

案2 農業者トレーニングセンターエリア

案3 クリーンセンター大崎エリア

○案3を選定

国道463号線に面しており、利用者にとって視認性・アクセス性において最もメリットが大きく、駐車場の確保の点において問題がないため。

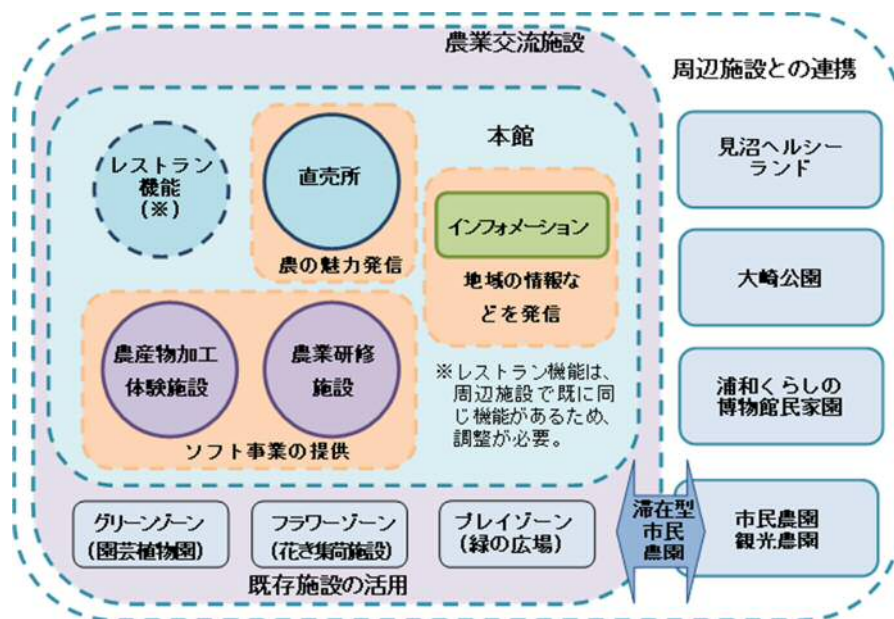


## (1) 農業交流施設の整備内容

新しく整備を必要とするものは、直売所、農業研修施設及び農産物加工体験施設で構成される農業交流施設本館となります。既存施設は「グリーンゾーン」、「フラワーゾーン」、「プレイゾーン」として、それぞれ活用します。

## (2) 敷地利用計画

現行クリーンセンター大崎のごみ処理施設（第一工場）東側エリア（約8,500㎡）を想定します。



## (3) 利用者推計

国土交通省で実施する道路交通センサス等のデータを用いて、利用者数を検討すると以下のとおりです。

1日あたり利用者数	稼働日数	年間利用者数
575人	347日(※1)	20万人

※1 年末年始の他、月1回の休館日を設定した場合の稼働日数(平成26年度)

さらに、ソフト事業参加者数による目標値を合算した場合の目標利用者数は以下のとおりです。

道路交通センサスによる利用者数の推計値	ソフト事業参加者数による目標値	目標利用者数
20万人	9万人	29万人

## (4) 農業交流施設の整備等費用

農業交流施設の整備費用を下記のとおり想定します。

項目	費用(千円)	備考
農業交流施設(本館)基本設計費用	18,500	
農業交流施設(本館)実施設計費用	42,300	
農業交流施設(本館)建築・外構工事費用	470,000	
周辺施設整備費用	554,400	温室改修費用
その他費用	29,500	ボーリング調査、測量費用
合計	1,114,700	

農業交流施設において、農の魅力をさらに発信するために、直売施設で商品を提供するだけでなく、「知る」、「体験する」ことにより農に親しんでもらうソフト事業を実施することで、より農の持つ価値と魅力を深く都市住民と共有することができます。

### 農業交流施設の利用

- ◇直売所
- ◇農産物加工体験施設
- ◇農業研修施設

### 農業交流ソフト事業の提供

- ◇朝市・週末マルシェなど農産物直売イベント
- ◇花・植木即売会
- ◇収穫祭など大規模イベント
- ◇各種体験教室
- ◇花・植木農作業体験など

### 農に対する都市住民のニーズ

- ◎安心安全な地元の農産物を購入したい
- ◎季節の花を見たい・買いたい
- ◎農作業体験をしたい
- ◎農家レストランを利用したい
- ◎果物などの収穫体験をしたい
- ◎地元の農産物を使った料理を学びたい
- ◎農産物の加工体験をしてみたい

6

## 農業交流施設整備の事業化計画

### (1) 事業手法の検討

さいたま市 PFI 等活用方針を踏まえると、本事業は、同種施設に PFI 等の活用実績があり、スケジュール上の支障もないため、PFI 等の事業手法も含めて整備手法を調査検討します。

### (2) 農業交流施設の整備スケジュール

		H28	H29	H30	H31	
クリーンセンター大崎 第一工場解体			解体設計・土壌調査	解体工事	解体工事・整地	
新収集棟移設 旧収集棟解体						
交流施設整備 関係	PFI 等による			導入可能性調査 整備手法決定	実施方針策定・公表 特定事業選定・公表	
	従来 手法による					
農業者トレーニング センター施設整備			展示温室等活用検討		農トレ温室改修	
運営関係		農業交流ソフト事業の展開 周辺農家とのネットワーク構築				
		H32	H33	H34	H35	
クリーンセンター大崎 第一工場解体						
新収集棟移設 旧収集棟解体		新収集棟移設工事	旧収集棟解体工事			
交流施設整備 関係	PFI 等による	事業者選定・公表 契約	基本設計、実施設計、施工			稼働 オープン
	従来 手法による	基本設計	実施設計	施工		
			施設運営計画検討	指定管理者選定		
農業者トレーニング センター施設整備		農トレ温室改修 (※PFI 等の手法で本館整備に含める可能性もある)				
運営関係		農業交流ソフト事業の展開 周辺農家とのネットワーク構築				